

Why Is the Right to Know Important? The Experiences and Thoughts of Donor-conceived People

出自を知ることがなぜ重要なのか 提供精子で生まれた人たちの経験と思い

本オンライン国際フォーラムでは、オーストラリア、ベルギー、日本で、提供精子によって生まれた方たち4名と、40年以上提供精子で形成された家族や出生者の「出自を知る権利」について研究してこられたカンタベリー大学のケン・ダニエルズ氏を交え、出自を知ることがなぜ重要なのかについて討論する。



ダミアン・アダムス (オーストラリアでのAID出生者)

Damian Adams (from Australia)

「法改正のために私が歩んできた道」 A personal journey for legislative change



リーン・バスチアンセン (ベルギーでのAID出生者)

Leen Bastiaansen (from Belgium)

「ベルギーでAIDで生まれるということ」 Being donor conceived in Belgium



加藤 英明 (日本でのAID出生者)

Hideaki Kato (from Japan)

「日本での精子等提供医療の歴史と倫理的な問題」

The history of donor insemination/conception in Japan and confronting ethical issues



石塚 幸子 (日本でのAID出生者)

Sachiko Ishizuka (from Japan)

「日本で出自を知る権利を実現するためには」

To gain the legal right to know our biological origin in Japan

ディスカッサント (Discussant)

ケン・ダニエルズ (カンタベリー大学 ニュージーランド)

Ken Daniels (University of Canterbury, New Zealand)



司会 (Moderator)

仙波由加里 (お茶の水女子大学ジェンダー研究所)

Yukari Semba (IGS, Ochanomizu University)

言語：英語・日本語(同時通訳付き)

2021年8月29日(日) 15:00~17:30 (JST)

18:00~20:30 (NZST) / 15:30~18:00 (ACST) / 8:00~10:30 (CEST)

オンライン開催
(ZOOM Webinar)

事前申込・登録制 (参加無料)

右のQRコードか当研究所のHPからお申し込みください

お問合せ：ジェンダー研究所 igsoffice@cc.ocha.ac.jp

